

薔薇園の女王様

く園芸部のえっちな先輩には
少しだけ棘があるく

ヒロイン…

瀬納 結葉（せのう ゆいは）

90・58・86 身長160cm 50kg

七森学園に通うお嬢様。

園芸部の3年生で薔薇が

似合う高貴なお嬢様で、

一部では薔薇園の女王様と呼ばれている。

薔薇を愛していて、土いじりが好き。

クールで面倒見のいい性格だが、

徐々にSっ気を出していく。

薔薇のように美しく、

ちよつと棘のある先輩。

飴と鞭で叱ったり脅したり甘やかしたり。

しつかり叱ったり

虐めたりするシーンがありますが、

あまりきつくなりすぎないように

お願いします。

愛情や、落ち込んだりしている後輩が

すつごく可愛いという感じで、

可愛がっている感じを

前面に出して欲しいです。

●はB G Vです。

★はS Eです。

▼はハートマークです。
エディターの都合上、
よろしく願います。

シナリオ…御厨みくり

イラスト…ゆき恵

声優…明日葉よもぎ

ロゴ…フリ

編集…中島駿平・Tonerico

台本化…中島駿平

■トラック0 薔薇園に男の子がいるだなんて

／／正面遠く

「……あら」

★ 足音・近寄り

／／正面

「こんにちは。あなた、新入生よね？」

ふふ、可愛いお顔。

珍しいわ。薔薇園に男の子がいるなんて」

「校内のこんな外れまで来てどうしたの。」

もしかして、迷子になったのかしら？

大きな学園だから、わかりづらいわよね。

よかったら案内しましょうか？」

「……あら。薔薇を見に来たの？」

それならゆっくり見て行って頂戴」

「確かに、七森学園の薔薇園には

美しい薔薇が揃っているわ。

学園祭では薔薇園ツアーが

すごく人気なのよ。

一度見ておきたい気持ちはわかるわ」

／＼正面

「そうじゃない……？」

……花に興味があるの……？」

「まあ……、ごめんなさい、なんだから、驚いちゃって。

勝手なイメージで申し訳ないわ
男の子がこういうもの好きって
珍しいなと思って」

「でも、よく考えたら華道家も庭師も
男性の方は多いわよね」

「この薔薇園は

庭師の先生もちろんいらっしゃるけど、
基本は園芸部で管理しているのよ」

「七森学園の花壇のほとんどは

園芸部が花を選んで育てているの」

「ああ、まだ名乗っていなかったわね。

私は園芸部部长、

瀬納結葉（せのうゆいは）よ」

「園芸部はそんなに部員が多くないから、
私が基本的にいろいろなことを
決めているわ」

「確かに……花を見ると
気持ちが悪くわよね」

／＼正面から後ろに顔を振り向きつつ（男の子と同じ景色を見るように）話す

「この薔薇園の薔薇たちは全て、本当に美しいわ」

「私、花って大好きなの。

美しい花を見ていると、

嫌なことを忘れられたり……

荒んだ心も澄んでいたり

するわよね……」

／＼そこから正面に顔を戻しつつ（男の子に顔を戻しつつ）話す

「でもね、花だって

植えたら勝手に綺麗な花を

咲かせるわけじゃないのよ」

「特に……

この薔薇園に咲いている花たちは、品種改良を繰り返して繰り返して作り出された薔薇たちなの」

「毎日水をあげて、肥料をあげて、

剪定（せんてい）して、植え替えて……

病気になってないか毎日確認して」

「そうよ。すごくすごく、手がかかって……大事に育てられた花たちなの」

／＼正面

「だから、美しい花を咲かせるのよ。
そう思いながら見ると……
ちよつと今までとは
違って見えるわよね」

「ふふふ、私の育てた薔薇を
そんなにじっくり見てもらえると、
なんだか嬉しいわ」

「……あつ……」

ごめんなさい。

トゲがあるから気を付けてって
言おうとしたのだけど……」

「血が出てるじゃない。

ちよつといらつしやい？」

／＼より正面近く

／＼演技…指舐め。ゆつくりで長めに

「……ちゅっ……んちゅっ……ちゅ……

んふ……ちゅっ……

ちゅ……ちゅば……

ちゅっ……ちゅう……」

／＼正面に近さが戻る

「これでいいわ。絆創膏も……」

★絆創膏を巻いてあげる。

「これでよし……と……」

痛みはないかしら」

／＼正面

「どの薔薇も……すごく美しいけど、
自分を守る棘を持っているのよ。
気を付けてね。」

私はそういうところも好きなのだけど」

「花に興味があるなら、

いつでも薔薇園に来て頂戴？

この花たちも、

せっかく美しい花を咲かせたんだから、
たくさんの人に見てほしいでしょうし」

／＼右耳元に近づきながら囁きます

「でも……」

「良かったら、見るだけじゃなくて……

実際に育ててみるって言うのも、

面白いんじゃないかしら……？」

「あなたが他に部活が決まっているなら

無理強いはいしないけれど……」

「意外と、楽しいかもしれないわよ。

新たな世界が、広がるかもしれないわ。

薔薇を選んだり、土いじりをしたり……

そういうの、やったことないでしょ？」

「自分が育てた薔薇が育ったり、

綺麗に咲いた時って、

見るだけのだったときよりも

感動するものよ」

「そういう嬉しさって

なかなか体験できない物だと思うのよね」

／＼右耳元

「私は毎日部活に居るから。

何かあつたらまた来て頂戴……？

入部したら……

先輩として優しく厳しく……

指導してあげるから」

■トラック1 本当に入部するとは
思わなかったわ

★扉の音

／＼左側遠くから正面へ移動しながら
「……あら。

驚いた、前に来てくれた子よね。
本当に入部したの？」

「……まあ。

いえ、すごく嬉しいわよ？
でもまさか本当に入部するとは思わなくて」

「拗ねないの。これからよろしくね？
ちゃんと可愛がって、
これからいろんなこと、
教えてあげるから」

「改めて。

私が部長の

瀬納（せのう）結葉（ゆいは）」

「……薔薇園の女王様？

もう、どこで聞いたの」

「まあ……

確かにそう言われることもあるわね」

／＼正面

「その名前を聞いたってことは、
これも言われたかしら」

／＼正面から左耳元へ移動しながら囁きま
す

「薔薇園の女王様には……

トゲがあるってこと」

「私……気に入った可愛い子って、
なんだか虐めたく
なっちゃうのよね……▼」

／＼左耳元から正面に戻ります

「ふふ、入部したからには厳しく行くから、
覚悟して頂戴ね」

「まずは園芸部の活動と
当番から説明しましょうか」

「園芸部は基本、当番制なの。
大体二人くらいでペアになって、
朝か放課後が活動時間」

「水やりや薔薇が痛んでいないか
確認をするの」

「大体、週に朝が1回、
放課後が1回の活動ね」

「あとは苗が届いたときは連絡するから、
苗付けの量が多いときは
放課後みんなが集まる。

……それくらいね」

／＼正面

「……それだけでいいのかって顔してるわね。
みんな習い事だってあるんだから、
忙しいのよ。」

私も放課後は習い事の日も多くて」

「あなたは？ 当番日の希望はある？

習い事とか、塾とか……

早く帰らなきゃいけない日とか

あるでしょう？」

「……何もないの？ あら、そう。

じゃあ手伝ってほしいことがある時は

呼び出すようにするわね。

連絡先、教えてくれる？」

★ スマホを取り出す。

電子音 連絡先交換

／＼正面でスマホを見ている顔の向き（下
向きから）「いい？」で顔をあげる

「……はい。登録できたわ。

いい？ 私が呼んだら、すぐに来るのよ。

無視なんてしたら、許さないからね」

「へ。アになる相手は……

ひとまず私でいいわね。

いろいろ教えることも多いから。」

「それに……七森ってずっと

女子校だったから、

男の子慣れしていない人が多いのよね」

／＼正面

「心配だわ。大事な部員たちの間で……
あなたの奪い合いが
起きちゃったりしたら」

「あなたも、大人しそうに見えるけど、
年頃の男の子だもん。
女の子の前だと性格が変わって、
狼さんになっちゃったり……
するのかしら？」

「こんな可愛い顔が
変わっちゃうところ……
ちよっと見たいけれど」

「ふふ、信用していないわけじゃないのよ。
あまり気にしないで頂戴」

「とにかく、慣れるまでは
私とペアってことで、よろしくね」

「それじゃあ、まずは……
明日の朝に来てもらえればいいかしらね。
その時に日課について教えるわ。
じゃあ、朝7時に薔薇園に集合ね」

「……早い？
当たり前でしょう。
授業が始まる前に花壇の水やりを
してやらないといけないんだから」

「間違っても、遅刻しないようにね。
……私を待たせないのよ？ よろしくね」

■トラック2 薔薇の水やりとお耳舐め

★ 走りこんでくる感じ

★ 勢いよく扉を開ける

／＼左側遠くから正面へ移動しながら話します

「……遅い。」

ギリギリセーフ……ですって？

あなた、新入生なのよ。

余裕を持って10分前には来るべきでしょう？」

「それに、七森の学生が、

あんなに足音を立てて

走りこんで来るだなんて……」

／＼正面から正面間近に近づきつつ話します

「いい？ あなたは確かに男性だから

関係ないと思うかもしれないけれど、

七森は由緒正しきお嬢様学校なのよ」

「そのイメージは守るべきものだし、

共学になってから

素行が悪くなったなんて言われたら

堪らないわ」

「ちゃんと、余裕を持って家を出ること。

七森の学生として

恥じない行いをする事。

約束よ」

★少し間

／＼正面近く

「……あら、いい返事ね。

わかってくれればいいのよ。

厳しく言ってごめんなさいね」

／＼右耳元へ近づいて囁きます

「もう一度同じことをしたりしたら……」

そのときはお仕置き、だけど」

／＼右耳元から正面へ戻りつつ話します

「それじゃあ朝当番の仕事を教えるわね。

ついてきて頂戴」

★扉を開ける

★足音

／＼左側で話します（男の子と水やりをするようにマイクに平行に）

「まずは薔薇園の水やりから

していきましょうか」

「基本的に……

もう花が咲いている薔薇は苗が強いから、

そこまで水をあげなくても大丈夫」

「むしろ水をあげすぎると

枯れてしまったりとよくないの」

／＼左側（男の子の方に顔を向けつつ）

「はい、ホースを持って？」

★ じゃぐちをひねる

★ シャワー状、水の音少ししたら止め

／＼左側（顔を左から正面に向けつつ話す
ホースで水を巻くのに釣られるように）
「びっくりしない。」

制服を濡らさないように気を付けてね。

手元のレバーで調整しながら、

雨のように葉や花の上から

かけるんじゃないくて、

直接、土の表面を濡らすように

かけていくの。

葉や花には水を掛けないようにね。

葉焼けを起こしたり、

傷付くと痛みやすくなってしまうから」

★ 水音・ループ

／＼マイクを下げる

（マイクの上のほうから。

主人公がしゃがんでいて

上から見ているイメージ）

／＼左側

「そうそう。」

薄く広げるように……

水をあげすぎないでね……

手元のレバーを意識して。

終わったら次の薔薇にすぐ移って。

ほら、そのペースじゃ

授業が始まっちゃうわよ」

／＼左耳元へ囁きます（しゃがんで囁きます）

「……上手ね。」

／＼しゃがんでいるところから立ち上がり
つつ話します（再び上方から声をかける
ように）

「きゃっ……」

もう、びっくりしてどうしたの。

なあに？ 突然囁かれて、

感じちゃった……？」

「去年まで女子高だった学園を

わざわざ選んで入学してきて……

女の子慣れしてるのと思ったけど、
意外とウブなのね」

／＼マイクを元の高さに戻す（ヒロインが
しゃがみ同じ目線に再びなったイメージ）

／＼左側（男の子と並行）

「ほら、このまま水やりを続けて？

私が側で見えていてあげるから」

／＼左側（男の子の方に顔を）

「そういえば、あなたって、

どうして園芸部に入ったの……？」

花に興味があるって

言ってたけど本当に……？」

／＼左側（男の子と並行）

「ほら、手がおろそかになってるわよ。

ちゃんとなさい。」

／＼左側（男の子の方に顔を）

「もしかして……」

誰か可愛い女の子でも

見かけて入部してきたんじゃない？……？」

「そんなふうには必死に否定されると、
怪しいわね。」

もし……気になる女の子がいるなら、
私、協力してあげてもいいわよ

……本当にいないの？

……なあんだ……」

「……もしかして、その気になる子……
私じゃ、ないでしょうね？」

「ちよっと。何その態度。」

顔、赤くなってるわよ。

もしかして……凶星なの？」

「そんなに否定しなくてもいいじゃない。

もし……私のことが

気になってるって言うなら私だって……」

／＼左耳元で囁きます・耳にキス

「ちゅっ……」

……ふふ、ごめんなさい。

あなたの耳、可愛いから」

「あなたにその気があるなら……こ
んなふうに可愛がってあげるのに」

／＼左耳元・耳舐め

「ん、んちゅっ……はぁ……ちゅ……

ちゅっ……ちゅぱぁ……

ちゅっ……ちゅう……

作業、続けて……？

ちゅっ……んちゅ……

ふう……ちゅ……はぁ……ちゅっ……▼
「

「……もう。素直になってくれたら、

もっと可愛がってあげられるわよ……▼
「

「なぁに？

……もしかして、

もっとしてほしいのかしら。

あまり時間はないから、

ちゃんと作業は続けてね」

「……ちゅっ……ん、んむ……

ちゅっ……はぁ……

耳舐められるの……気持ちいいの？」

「ちゅっ……ちゅう……ん、んふ……

はぁ……ちゅっ、ちゅるっ……

ちゅっ……んむ……ふ……ちゅっ……

ちゅる……はぁ……ちゅっ……

ちゅう……
「

「水あげすぎないように、気を付けてね。

そう、上手よ……

ちゅっ、ちゅぱぁ……

ちゅっ、ちゅる……

ちゅっ……ちゅう……
「

●耳舐め・左

／＼左耳元で囁きます

「この辺りの薔薇はこれくらいかしらね。
今度はこっちに移動してくれる？」

／＼位置移動

／＼右側で話します（男の子と並行）

「この薔薇は植え付けしたばかりなの。

こういう植え付けたばかりの

苗にはしっかりと水をあげるようにしてね」

★ 水音・ループ

「土がしっかりと潤うように意識して。

……そう、それくらいよ」

「……もう。何期待してる顔、してるの？

もう片っぱの耳も、

舐めて欲しいんでしょう？

仕方ないわね」

／＼右耳元・耳舐め

「ん……んちゅっ……ふう……

ちゅっ……ちゅばあ……

耳舐められるの、初めて？」

「ちゅっ……ちゅう……

ちゅば、ちゅるっ……ちゅっ……

初めてで……

病みつきになっちゃったんだ……？

ちゅっ、ちゅばあ……

じゅるっ、ちゅっ、ちゅう……▼

はあ……ちゅっ……」

● 耳舐め・右

／＼右耳元から右側へ移動しつつ話します

「薔薇園の水やりはここまでね。

じゃあ……残念だけどお耳もここまで。

ふふ……

また、今度ね」

／＼右側（男の子の方に顔を）

「朝はあまり時間がないから

基本は水やりをメインに。

可能なら薔薇の様子を見てあげてね」

「もし、葉っぱが黒くなつてたり、

枝が枯れたりしていたら報告して頂戴。

……とりあえず今日は問題なさそうね」

／＼マイクを下げる

／＼しゃがんでいるところから立ち上がり

つつ

「水やりはまだ終わりじゃないのよ。

ホース持って」

／＼上方から

「薔薇園の水やりは終わったけど、

まだ玄関の花壇と

昇降口前と中庭が残ってるわ。

ほら、急いで。時間がないわよ」

★予鈴

〱時間経過

〱マイクを元の高さに

〱正面

「……お疲れ様。なんとか終わったわね。

朝当番は基本水やりが仕事ね。

雨の日は外の水やりはなくていいから
少し楽だけど」

「じゃあ……次は……」

★スケジュール帳をめくる紙音

「明日の放課後ね。

その時に薔薇の植え付けもしましょうか。
時間厳守よ。遅れないようにね」

■トラック3 薔薇園の女王様との放課後部活動

／＼正面遠くから正面へ移動しながら話します

「あら。意外と早かったじゃない。もしかして、

部活が楽しみだったのかしら」

「そうね、昨日の朝は水やりだけだったし、いよいよ本格的に活動できるわね」

「水やりは朝だけで大丈夫よ。

あまりにも暑い日は

学内整備の方が昼も

水やりしてくれるけれど。

お世話をしすぎてもよくないから」

「外の花壇の花はそこまで

手入れをしなくて大丈夫だから、

放課後の活動は薔薇園がメインね」

「じゃあ、

まずは剪定からしていきましようか」

／＼正面から右側に移動しながら話します
(イメージとして)

一緒にしゃがんで花を見つつ)

「……この花がいいかしらね。

まだ綺麗に咲いているように
みえるでしょう？」

「でも、開ききって

かなり古くなっている花なの。

だいたい薔薇の花は咲いてから

2週間くらいね……」

「」うなったら、

枝の3分の1くらいのところから……」

★パチンと切る

「こんなふうに切り落としてあげるのよ。

こうすると新しい芽が出てきて、

また新しい花が咲くから」

「それからこんなふうに

枝が枯れてしまっているところも、

しっかり切ってあげれば、

また芽が出てくるわ」

／＼右側(男の子の方へ顔を)

「やってみる？」

ちよっと待っていて。

男性用の手袋があつたはずだから」

／＼右側（男の子方へ顔を）

あっ……ちよっと、

素手で触るなんて……っ」

「ほら、危ないって言ったじゃない。

薔薇にはトゲがあって危ないのよ」

「あー……血が出ているわ。

ちよっと見せて」

／＼右側から正面近くへ移動しつつ（イメ

ージとしては男の子も右向きになってヒ

ロインに指を見せているイメージです）

「トゲの先が入っちゃってるじゃない。

ちよっと押すから、我慢してね」

「痛い？ もう、男の子でしょう？

それに、私の言いつけを守らずに

触ったのが悪いんだから」

「んっ……もう少し……よいしょ……

ここまで来たらトゲ抜きで……」

「はい、取れたわ。

……血が出ちゃったわね。

そういえば……

前にもこんなふうに怪我してたわよね。

あなたが初めてここに来た時も……」

／＼正面間近・指舐め

「……ちゅっ……

その時も……こんなふうに

指を舐めてあげたんだったわね」

／／正面間近

「んちゅっ……ちゅっ……
消毒液、忘れちゃったから……
こうすると、治りが早いって
言うでしょう？」

「ちゅっ……んちゅっ、ちゅう……
ちゅるっ、ちゅっ、んく……ちゅう……
はぁ……ちゅっ、ちゅばぁ……
ちゅるっ、ちゅう……」

「……傷のところ以外も舐めてるって……？」

「ふふ、舐めてたら楽しくなって
来ちゃったから……▼」

「ちゅっ……ちゅばぁ……
ちゅっ、ちゅるっ……ちゅっ、んっ……
はぁ……あなたの指って、
結構太くて……
ちゅっ、ちゅるるっ、ちゅっ……
女の子の指とは……
なんだか違うわね……」

「ちゅっ、ちゅばぁ、ちゅるっ、
ちゅっ、ちゅう……
んふ……はぁ……ちゅっ……ちゅう……
ふふ、舐めてたらちよつと
えっちな気分になって
きちゃったわ……▼」

／＼正面間近

「あなたも、そうなんじゃない……？
先輩に、怪我をした指を舐められて、
今までとは違う感情を抱いちゃった？」

「……からかわれて、
赤くなってるわよ。可愛い」

「意外と、凶星だったりするのかしら。
まあ……私としては……
大切な他の部員に手を出されたり、
女性関係で揉められるよりは……
私を想ってくれた方が
ありがたいかなと思うけど」

「……ん……んちゅっ……
ちゅっ、ちゅるっ、ちゅ……
ちゅ、ちゅぱ……
ちゅっ、ちゅる……ちゅっ……」

●指舐め

／＼正面間近から正面へ距離をとりつつ
「ふふ……これくらいかしらね。
もう痛くない？
とにかく、薔薇には全て、
棘があるんだから……
ちゃんと、手袋をつけて、
気を付けて扱いなさい。
そうしないと……怪我しちゃうわよ」

★移動

★戸棚をあさるような音

★移動

／＼正面遠くから近くへ移動しつつ

「はい、手袋。これをつけて切ってみて。

……可哀想って顔しないの。

またちゃんと新しい芽が生えてくるから」

★パチン

／＼右側（正面の花を見つつ）

「はい、よくできました。

じゃあ、今度はこっち」

「こっちはつる薔薇ね。

切った部分から

どんどん成長していくから、

あまり躊躇しなくていいわよ。

さあ、古くなった花、探してみて？」

「……それはもう少しかしらね。

ええ、その花ならいいわ。

枝から3分の1くらいのところを……」

★パチン

／＼右側（男の子の方に顔を）

「ふふ、よくできました。

意外と飲み込みが早いじゃない。

……ちよつと褒められたくらいで

調子に乗らないの。

ほら、薔薇はたくさんあるんだから、

どんどん見て行って」

／＼時間経過

★剪定の音しばらく

／＼右側（正面の花を見つつ）

「これくらいかしらね」

／＼右側（男の子の方に顔を）

「放課後の活動としてはまず、

薔薇園の薔薇を全て見て回ること。

咲き終わった薔薇や枝や

葉の痛んだ部分がないか確認して、

剪定してあげること」

「特に問題なければこれで終わりよ。

でも……今日は新しい苗が来ているから、

植え付けしてみましようか。

準備するから、こっちに來て？」

★足音

／＼正面から話します

「はい、シャベルと、こっちが肥料。

こっちが植え付け用の石ね。

全て運ぶのよ。よろしくね」

／＼時間経過

★足音

／＼左側（正面の土の方へ顔を）
「……この辺りがいいかしら」

／＼左側（男の子の方へ顔を）
「ほら。これくらいでバテないの。
男の子でしょう？」

／＼左側（正面の土の方へ顔を）
「じゃあ、

この植木鉢の土が全部入るくらい……
30センチくらい、穴を掘ってくれる？」

★土を掘る音

「それくらいでいいかしらね。
そしたら今度はこの肥料を
穴に入れて……
穴の中の土と混ぜてあげて」

★土を混ぜる音

「……それくらいね。
そしたら小石を底に平らに敷き詰めて」

★石を敷き詰める

／＼左側（正面土の方へ顔を）

「薔薇の根元を持つて、

傷つけないように気を付けながら、

植木鉢から引き抜いて……

穴に植えたら、

周りの土をそっとかけてあげて」

★土の音

「あまり土を叩きすぎないで、

ふわっとした感じでいいわ。

根元は少し盛り上げて、

畝を作ってあげて」

★土の音をバックで

「初めてにしてはスムーズにできてるわね。

筋がいいわ。

七森の女の子たちって

お嬢様が多いから……

園芸部に入っても、

こういうの不慣れなことが多いのよね」

「薔薇や花は好きだけど、

土に触ったり、肥料を上げたり……

そういうのは得意じゃないって」

／＼左側（男の子の方へ顔を）

「あなたは……向いてるみたいね。

嬉しいわ。

誘ってみて、よかった。

園芸部に入ってくれて、ありがとう」

／＼時間経過

／＼左側（正面土の方へ顔を）

「いいわ。これで全部ね。」

ここまでできたら土の表面に

緩効性（かんこうせい）の肥料を

振りかけてあげて……」

「あとは少し表面に水を掛けてあげたら
おしまいよ」

★水の音

／＼左側（正面土の方へ顔を）

「……よくできました」

／＼左側（男の子の方へ顔を）

「どう？　自分で植え付けすると、

なんだか嬉しいでしょう？

これから何か月もかけて

大きく成長して……」

「うまく成長したらこれからずっと、

何年も……

あなたが卒業しても、

誰かが世話を引き継いで、

この薔薇はずっと成長し続ける……」

「そう考えると、なんだか素敵じゃない？

ふふ、ちよつと満足そうな顔してるわね」

／＼左側（男の子の方へ顔を）

「週に1回くらいの活動だけど、
やっていけそうかしら」

「……いい返事ね。」

改めてこれからよろしくね」

■トラック4 あなたの股間に生えているものも確認しないと。

／＼正面遠くから正面へ近づきつつ話します

「あら。いらっしやい。

あなたが入部してからもう一カ月ね。部活にも大分慣れてきたみたいね」

「……聞いてるわよ。

あなた、自分の当番じゃない日でも薔薇園に顔出してるんでしょう？

あなた、すっかり園芸部に馴染んでるじゃない」

／＼演技…少し冷たく拗ね

「……まあ、いいけれど。

みんなからの人望も厚いようだし、可愛がられてるみたいだし、次の部長はあなたかしらね」

「あなたが来るまでに

剪定は一通りしておいたから、

今日は苗をいくつか植えてほしいの。

今日届いたのがこれなんだけど……」

／＼正面から正面遠くへよたよた移動しながら

「……そんなに持って大丈夫？

危ないわよ。

一個ずつ運んだ方がいんじゃない？

もう……ちゃんと前を見て……」

「……きやつ……」

★ガシャン 植木鉢を落とす

／＼正面遠くから正面近くへ急に移動しながら

「大変……っ！ もう、何してるのっ！

肥料と石、早く持ってきて！

すぐ植えるわよ！」

★土を掘る音など入れて時間経過演出

／＼正面

「……はぁ。なんとか無事に植えられたわね。

じゃあ……

お説教と行きましょうか……っ？」

／＼正面間近に移動しながら

「私、危ないからやめなさいって

言ったわよね」

「今回は苗が傷付いていなかったから

なんとかそのまま植えられたけど……

苗自体がだめになっていた

かもしれないのよ。

明日になったらどこか傷付いていて、

枯れてしまうかもしれないわ」

「あなた、園芸部に入って、

慣れてきたからって……

たるんでるんでしょう。

珍しく男の子が入ってきて、

みんな褒めてくれるから、

調子に乗っちゃった？」

／＼正面間近

「誰だって不注意はあるわ。」

あなたが危険なことをせずに

落としてしまったなら、

私は別に怒ったりしないの」

「でも……今回はそうじゃないわよね。」

私の言ってること、理解できている？」

「……そう。ちゃんと謝れるのは、偉いわね。」

……ふふ、さすがのあなたも

落ち込んだるわね。

落ち込んだ顔も、可愛い」

「わかってくれればいいのよ。」

薔薇の苗は、女の子のように……

決して傷つけないように、

大事に、大事に運ぶの。

それを意識すれば、

今回のような間違いは犯さないはずよ」

／＼正面間近から正面へ移動しながら話します

「……じゃあ、お説教はおしまい」

／＼正面から左耳元へ囁くように

「今からはおしおき……ね。」

こっちにいらっしやい？」

★移動

★扉を開ける音

★扉閉め、鍵掛け

★移動

／＼左側（男の子の方へ顔を）

「温かいでしょう？　ここは特別な温室なの。

気温の変化に弱い薔薇を育てていて、

室温は管理されてて、

水も少しずつゆっくりあげる

装置がついてる」

／＼左側から一歩後ろに移動しつつ（イメ

ージとして逃げようとする男の子をつか

むような感じで）

「ほら。逃げないの。痛くないから。

ここに座って？」

／＼マイクを下げる

／＼正面間近に回り込みつつ

／＼上方から見下ろしつつ話す

「……男の人って、

私たち女の人とは違って……

ここに、何か生えてるんでしょう？」

「……ふふ。

ずーっと興味あったのよねー……」

「鍵も閉めちゃったし

ここなら誰も来ないし……」

／＼正面間近マイク上方

「靴を脱いで、足で……」

ふふふ、踏んじやった……▼」

「確か、潰したり衝撃を与えたりすると、
すっごく痛いんだったかしら？」

「脅えないでよ。……痛く、しないから。

でも……あなたが不用意に

動いちちゃったりしたら……

間違って、痛くしちゃうかも……▼」

「……制服の上からだけど……

足の裏に何か感じるわ。

ふうん、これがおちんちんなのね……▼

足の裏で触ってあげる……▼」

★制服の上から足コキ、ゆっくり触るよ
うな感じで布音少し

「……なんて顔してるの？

そんな……気持ちよさそうな顔して。

これはおしおきなよ」

「もつと……

怯えたような顔してもらわなきゃ。

そう……悪いことしてごめんなさいって、

そう思いながら罰を受けるのよ」

／＼正面間近マイク上方

「……あら。さっきは柔らかかったのに……
なんだか、硬くなってきたような……？
気のせいよね。」

これはおしおきなのに……

先輩におちんちん足で弄られて、
感じたりしてないわよね」

★制服の上から足コキ、ゆっくり触るよ
うな感じで布音少し

「……あら。」

なんだか盛り上がってきたような……？
そこに何か隠しているのかしら？」

／＼左耳元へ囁き

「……ねえ。」

制服とパンツ下ろして、
その場所がどうなってるか、
見せなさい？

先輩の言うコト……聞けないの？」

★下脱ぎ

／＼正面間近マイク上方

「……よくできました。」

……まあ……よく見せて？」

／＼正面間近マイク上方

「へえ……初めて見たわ。おちんちんって、こんなふうになっちゃうのね……」

「……くすくす、すごい。

こんなに固くなつて、充血して……

私に足で踏まれて……

気持ちよくてこうなっちゃったの？

もう、おしおきなのに。悪い子ね」

「……こんな熱くて固くなってるの……踏んだらどうなっちゃうのかしら」

★足コキ、少し

「触っただけで……ビクビクしてるわ。

情けない声出して、どうしたの……？」

「……可愛い顔が、真っ赤になってるわよ。

男の子って、

みんな股間にこんなもの生やしてるのね」

「……あら。ごめんなさい、

ちよつと強かったかしら。

こんなこと初めてだから慣れなくて。

あなたがどうしたいか……

どうしてほしいか、教えてくれる？」

「足の裏で……おちんちんをいっぱい触って、すりすりなぞって欲しいの？

あなた、おしおきだってわかってる？

特別だからね……？」

★足コキ

／＼正面間近マイク上方

「……ふふ。気持ちよさそうな……顔……▼」

「薔薇園の中で、

先輩にパンツ脱ぐように命令されて……

足の裏でおちんちん踏まれて

すりすりされて、

こんなに興奮しちゃうなんて……」

「あなたってすごく……変態さんのね。

それに、意外と……

いじめられるの、好きなんだ……？」

「嫌がったりはしないのね？

私に……もつと、してほしいの？」

「……ふふ、素直なあなたってすごく可愛い。

もつと……いじめたくなっちゃう」

★足コキ

「……はぁ……どう……？」

足で……先っぽも、ふにふにしてあげる」

「……ふふ、こんなふうにはしたなく

足を動かすなんて、初めてよ」

／＼正面間近マイク上方

「……鼻息荒くしながら、どこ見てるの？」

もしかして……私の足？

ああ……確かに……

私のパンツ、見えそうね」

「私のパンツ……見たい？

見たらもつと興奮するって言っなら……
いいわよ」

★衣擦れ、スカートめくりあげ

「はい、どうぞ……▼

ストッキング履いてるから、

あまり見えないでしょうけど。

……それがいいの？

ふうん、いろいろあるのね」

「私のパンツが見れて……

興奮してるみたいね。

おちんちん、さつきと動きが違うわよ。

あなたの興奮が……

私の足の裏から、伝わってくるわ」

「それに、足の裏って言うのも……

結構気持ちいいのね。

こうやって、両足で挟んで、

何度もスリスリして……

なんだか私も

気持ちよくなつて来ちゃうわ」

／＼正面間近マイク上方

「……………ん……………冷たい。」

なんか、先端から何か出てるわよ。

……………我慢汁って言うの？

……………ふうん、気持ちいいと出ちゃうのね。

じゃあ……………もつと出るように、

いっぱい動かしてあげようかしらね」

「こーやって足の裏で……………挟んで……………
どう……………？」

私はちよつと恥ずかしいけど……………
パンツ、しっかり見えるでしょ？」

「ふふ、吐息荒くして……………

私のパンツ、

しっかり凝視してるわね……………」

「ほら。もつと感じなさい……………？

もーつと気持ちよくなって……………

私の足の裏で何度もしごかれて……………

誰か来るかもわからない

放課後の薔薇園で……………

精液どびゅって出せたら……………、

おしおきは終わりにしましょうか」

「男の人って、気持ちよくなると……………

硬くなったおちんちんから、

精液がいっぱい出るんでしょう？

私、それ、見てみたいのよね」

／＼正面間近マイク上方

「ほら……精液出すまで、

気持ちよくなりなさい……？

私の黒いストッキングに……

あなたの真っ白な精液いっぱいかけて？

それができたら、

今日の失敗は許してあげる」

「……先端、もっと刺激してほしいの？

じゃあ……我慢汁の穴踏みつけて、

全体にもっと塗りたいってあげる。

私の足の裏も……

なんだか湿って来ちゃったわね」

「ふふ、私の足で感じているあなた、
すごく可愛いわ。

もっと、気持ちよくなってる姿、
見せて？」

「……ああ、いいわ。

すごく、堪らなそうな顔……▼

もう、耐えられないって顔、

すごくいい……▼」

「もっと激しく、ごしごししてしてあげる。

はあ……すごく、いい……

可愛い……▼

はあ……あ……▼」

／＼正面間近マイク上方

「はぁ……あなたの可愛い顔見てたら、私も興奮してきちゃったわ。」

ん……んう……あ……はぁ……
もつと……

気持ちよくなって、見せて……▼」

「ん、んんっ……▼

我慢汁、すごくて……

なんだかくちゅくちゅって、
えっちな音してるわね」

「はぁ……すごい。」

これが男の人のおちんちん……▼

可愛い……▼

もつともつと、

あなたのえっちな顔も、

えっちな姿も見たいわ……▼」

「ん、んんっ、もつと強く……

足の裏で挟んで……

はぁ……気持ちよさそう……▼

おちんちん

どんどん硬くなってるわ……▼」

「あ、はぁ……見たい……▼

精液出るところ……見せて？

あなたが果てちゃうところ……

私の目の前で、見せて？」

／＼正面間近マイク上方

「んんっ、もう……そろそろ？」

出ちゃうの？

ええ。出して？

私の足で挟まれて……▼

気持ちいいって精液いっぱい、出して？」

「ああ、いいわ。可愛い、可愛い、可愛い、可愛い、可愛い▼
感じてるあなた、可愛い▼

はあ、はああっ、あ、あっ▼

ん、んんう▼

見て、私のパンツ、んんっ、もつと、

見て、あ、あっ▼

はあ、あっ、どびゅどびゅって、

精液、あ、あっ……出してっ▼」

「あ、あっ……んんっ、あ、はあ……

あっ……んんっ！！」

★射精

「……はあ……んふふ……わあ……▼

まだ出てるわ……▼ すごい……

こんなにいっぱい出て……▼

こんなにびくびくして……

精液ってこんなに飛ぶのね……▼

私のストッキング、

真っ白になっちゃった……▼」

「あら……見て？

私のスカートまで飛んじやってるわ。

そんなにも私に……

届けたかったのかしら」

／＼正面間近マイク上方

「くすくす、可愛いおしおき……」

お疲れ様でした▼

私におしおきされなくなったら……

これからも失敗しないように

気を付けるのよ」

／＼右耳元へ近づきながら囁きます

「まあ……」

もっとおしおきされたいって言うなら、

考えてあげなくも、ないけど……▼」

■トラック5　びしょびしょになっちゃったから温め合いましょう？

★扉の音

／＼正面遠くから正面へ移動しながら話します

「おはよう。」

今日もちゃんと遅刻しないで来たわね。

それじゃあ早速水やりしましょうか」

★移動音

★水音

／＼左側（正面地面の方へ顔を）

「水やりもすっかり慣れてきたわね。

……ふふ」

★水音止め（ホースを踏む感じ）

／＼演技…悪戯に。ホースを踏んで水が出ないように悪戯してます

／＼左側（男の子の方へ顔を）

「あら？　どうしたの？

水出なくなっちゃった？

どこか引っかかってるんじゃないかしら」

★水音・嘔き出す感じ

／＼左側（男の子の方へ顔を）

「きやつ……！」

「もう……っ、何してるの。」

私まで濡れちゃったじゃない。

きやつ……！！

や、やだっ、

もう、早く止めなさい……！！」

★蛇口を止める音

「あーあー……、もう……

びしょびしょに

なっちゃったじゃない……

これじゃあ1時間目の授業は

受けられそうにないわね」

／＼左側から正面遠くへ一歩前に出る感じ
で

「職員室に電話してくるから、

ちよっと待ってなさい。

……体操着で授業を受けるなんて、

そんなはしたないこと許さないわよ」

「家に電話して、

あなたの分も替えの制服を

持ってきてもらうから。

ほら、そんな濡れた服で待ってたら

風邪引いちゃうわ。

温室に移動しましょう？」

★移動

★扉の音

★閉めて鍵をかける音

★移動

／／正面遠くで

／／演技…電話している風

「ええ……ええ……」

よろしくお願いします……」

／／正面遠くから正面移動しながら

「電話したわ。」

1時間目は休んで、

ここで待っていましたよう？」

「ん……濡れた服が制服にはりついて、
気持ち悪いわね」

★服を脱ぐ

「ふう……温室は温かいから、
裸でも大丈夫そうね。」

ほら……

いつまで濡れた服を着ているの？
早く脱いじゃいなさい？」

「どうしたの？ 恥ずかしいの？

……私に裸を見られるのが？

……ふふっ、意外と、ウブなのね。

私と……あんなことまでしたくせに」

／＼正面

「命令よ。脱がしてあげるから……」

私の前で裸になりなさい？

鍵はかけてあるから、

誰も入ってこないわ」

「ほら……脱がしてあげるから」

★服脱がし、布の音

「……ふふ。ほら、堂々としてなさい？

大丈夫。あなたの裸……

すごかつこいいわよ？

もう少し筋肉が付くと、

なおいいかしら……

毎日土とか運んでたら、

トレーニングになるかしらね」

／＼正面間近へ移動しながら囁きます

／＼肌に触れていく。

「……だーめ……逃げないの。

あなたの肌って……

結構すべすべしてるのね」

「……ちゅっ……」

ほら……濡れた服、

早く脱がなかったから……

冷たくなってるじゃない……

風邪を引いたら大変ね。温めてあげるわ」

／＼正面間近

／＼演技…肌を舐めていく

「ん……ちゅっ、んちゅ……

んふ、はぁ……

ちゅっ、ちゅる、ちゅぱぁ……

はぁ……んう……

ちゅっ、ちゅる……

ん、んむ……ちゅっ……ちゅ、はぁ……」

「濡れた肌を温めてあげているだけ
なのに……なんて顔してるの」

「ちゅっ、ちゅるるっ……

じゅる、ん、んふう……

ちゅ、ちゅぱぁ、ちゅっ、

ちゅる、ちゅ、んんっ……

んふ……はぁ……ちゅっ。

じゅる、ちゅ、ちゅぱ、じゅるっ、

ちゅっ……ちゅう……」

「もしかして……感じちゃってるの？

先輩に……裸で……

濡れた肌を舐められて……

こんなところで……？」

「でも……嫌がらないのね？

もっとしてほしいんでしょう？

おねだりしたって、いいのよ……？

もっど……温めてくださいって、

言って御覧なさい？」

／＼正面間近

「…………ふ…………ふふつ…………」

あなたって、本当に…………素直で可愛い」

「ほら、もつとこっちに来なさい？

私の肌も冷たくなってるから…………
温め合いましょう？」

／＼右側間近へ移動しながら囁きます

「ちゅっ…………んむ、ちゅっ…………」

はあ…………ちゅっ…………

ちゅるるっ、ん、んむ…………ちゅっ…………

はあ、ちゅっ、ちゅるるっ、

ん、んむ、ちゅっ…………」

「きやつ…………」

「もう、あなたも私の肌を

舐めたくなっちゃったの？

突然したらびっくりするじゃない。

ちゃんと…………先輩の肌…………

舐めさせてくださいって言わなくちや」

★少し間

「ふふ、可愛い。

いいわ。二人で舐め合いましょう？」

／＼マイクより下、いろいろな場所舐めながら移動する感じで

「ちゅっ……んふ、ちゅ、ちゅぱ、

じゅるるっ、ん、んむ、ちゅぱ、

じゅ、ちゅるるっ……▼

はぁ……ん、ん……

っ、はぁぁ……あっ……▼

はぁ……んんっ……ちよつと……

ぁ、あっ……」

「もう……そんな、えっちな舐め方、しないですよ。

はぁ……ん、んんっ……もう……

どこでそんなの、覚えてくるの……？

ぁ……んんっ……」

「はぁ、あっ……ちゅっ、ちゅう……

ん、んちゅっ……

ちゅっ、ちゅぱぁ……、

はぁ、あっ……ちゅっ、ちゅう……

ん、んんっ！ ぁ、あっ……

んっ……んう……ちゅっ……

ちゅう……じゅ……じゅるるっ……」

「……あら。

もう……大きくなってるじゃない……▼」

「ちゅっ、ちゅう……じゅるるっ、ちゅっ、

ちゅぱ、ちゅっ、ちゅうう……▼

ぁ、んんっ……はぁ……

ちゅっ、ちゅう……

んむ、ちゅっ、ちゅぱぁ……▼」

／＼マイクより下股間の位置で

「あ、あつ……はあ……あつ……

こ、こ……♪

舐めて、欲しいの……？」

「ちゅっ、ちゅばあ……

じゅるっ、ちゅっ、ちゅう……▼

「もう……仕方ないわね……

早くパンツも脱ぎなさい？」

「この間も見ただけ……

男の人って、こんなものを

股間に隠しているのね……

充血しちゃって……苦しそうね」

「この私に膝をつかせるなんて、

あなたくらいなものよ？」

／＼演技…フェラ

「ちゅっ……じゅる……

ちゅっ、ちゅばあ……、

んちゅっ、じゅる……

ふふ、情けない声が漏れてるわよ？

そんなに気持ちいいの？」

「……そう。そこまで感じてくれるなら、
ちよつとやりがいがあるわね」

／＼マイク下股間の位置で

「ちゅっ、じゅる……ちゅっ、ちゅばあ……

じゅるっ、ちゅっ、ちゅ……ちゅう……

はあ、あっ……

んむ、ちゅっ、ちゅる……

じゅる、ちゅっ、ちゅるるっ、んむ、ん、

はあ……ちゅっ、じゅるるっ……

はああ……あっ……んんっ……

んふ……ん……んむっ、ちゅっ……

ちゅる……じゅるるっ……」

「はあ……あなたのおちんちん……

私の唾液でべとべとになっちゃったわ。

これがいいの？

ふうん……」

「ちゅっ……ちゅるっ、じゅるるっ……

ん、んむっ……ちゅっ、ちゅばあ……

じゅるっ、ちゅっ……んふ……

じゅるるっ、ちゅば、ちゅっ……」

「んふ……私の口の中で……

ビクビクして……

おちんちんって……可愛いよね。

あなたのだからかしら」

「もっと、いろいろ舐めてあげるわ」

／＼演技…吸い

「じゅるっ……ちゅっ……ちゅう……」

／＼演技…啜えたまま

「んむ……吸われるのも、いいの？」

／＼演技…吸いメイン

「ちゅっ……ちゅう……じゅるっ、んちゅっ、ちゅっ……ちゅばあ……」

「ちゅっ、ちゅく……ちゅう……じゅる、

ちゅっ、ちゅば……ちゅっ、んんっ……

ちゅるっ、ちゅ、ちゅう……じ

ゅる、じゅ、じゅるるっ、ちゅっ、

ちゅう……」

「んふ……可愛い顔。

もつと食べたくなっちゃうわ。

んむ……ちゅっ、じゅる……

ちゅっ、ちゅう……ん、んんっ……」

★予鈴遠くから

「ん……チャイム、鳴っちゃったわね」

／＼左耳元で囁きます

「もう……誰も来ないわよ。

こんなふうに裸で絡みあっても……

しばらくは誰にも見つからないわ」

／＼演技…耳舐め

「んちゅっ……ちゅっ……はあ……

ちゅっ、ちゅるっ……

ふー……

相変わず、耳も弱いからね」

／＼左耳元で囁きます

「こんなところ、

見つかったら大変なことに
なっちゃうわね。

でも……止められない、でしょう？」

「ちゅっ……んちゅっ、はあ……

んっ……ちゅっ、ちゅぱ……ちゅっ……」

「あっ……やだ、んっ……首筋……

んっ、んんっ……

はあ……続けて……？」

あ、あっ……んんっ……

ちゅっ、ちゅう……あ、あっ……

んんっ……んふ、あ……

ちゅっ、ちゅぱ……

おちんちん、切なそうね。

しごいてあげる」

★手コキ・ループ

／＼演技…耳舐め

「ちゅっ、ちゅるっ……

じゅるっ、ちゅっ、ちゅぱ……

ちゅっ……おちんちん、

限界みたいね……

ちゅっ、ちゅるるっ……ん、んふ……

じゅるっ、ちゅぱ……

ちゅっ、ちゅう……

はあ……じゅる……

ちゅっ、ちゅるるっ……

んむっ、ちゅっ、ちゅぱ……」

★射精

／＼左耳元で囁きます

「……きゃっ……」

／＼左耳元から正面間近へ移動しながら話します

「はぁ……ん、すごい……」

ドクドク、脈打ってるわ……」

／＼正面間近から正面へ移動しながら話します

「もう……手が汚れちゃったじゃない。

出す時はちゃんと言いなさい？

それにしても……

出しても全然、

小さくならないのね？

まだ……したいの？」

／＼正面、地面を指しつつ話します
「じゃあ……ここに横になって？」

■トラック6 私の中、気持ちいい？

〱マイクを下げます（可能なら床に仰向けに）

〱マイク上方遠くから話します

「……ふふ。裸で温室の床に寝転がって……変な気分でしょう？」

〱マイク上方遠くからマイク上方近く（股間の位置に相当する部分）へ移動しながら話します

「……えい。

……あなたの上に、跨っちゃった……▼
このまま舐めてあげてもいいけど……
もっと、したくない？
私の……ここに、入ったりとか……▼」

★素股・くちゅ音小

「んっ……んうっ……あ……

はあ……私の大事なところと、
擦れちゃってるわ……

このまま続けたら、入っちゃいそうね」

「あなたが可愛いから……

私も大分、興奮しちゃってるのよ。
もっと……してみたいんじゃない？
あなただって、散々私に悪戯されて、
気持ちよくなりたいたいんでしょう？」

「私のおまんこに入りたいって
言ってくれたら、
入れてあげてもいいわ？」

／＼マイク上方

「……ふふ。あなた、

自分の今の姿わかってる？

でも……仕方ないわね。特別よ」

／＼演技…挿入

「んっ……んっ、んんんっ……！！

はぁ、あっ……

んんっ、んん、ぁ、あっ………▼」

「はぁ……入っちゃったわ………▼

ふ……ふふふ………▼

んっ……私のおまんこ、

広げられちゃってるわ……、はぁ……

お腹の中、いっぱい……

なんだか苦しい………」

「気持ちいいの……？」

こんな快感、初めてなんだ………？」

「……これがセックスなのね。

病みつきになっちゃう人がいるのも、
わかるわ。

ん、んっ……確かに、お腹の中、

いっぱい……はぁ……

ん、んんっ………▼

ぁ、はぁぁ……んっ……

おまんこで受け止めると、

さっきまで可愛かった

あなたのおちんちんも、

全然違う感じるわ………▼」

／＼マイク上方

「さっきまで舐めていた時は、
なんだか可愛いつて感じなのに、
今は……すっごく、かっこいいわ……▼
んふ……私のお腹の中で、
ビクビク震えてる。
私の中で……どうしたい？
動きたいんじゃない？」

「んっ……だーめ、突き上げちゃ……
私が動くから、動いてほしいんだったら
ちゃんと言つて？」

「……ふふ。先輩に主導権取られて、可愛い。
じゃあ、動いてあげるわね……」

★くちゅ音・ゆっくり

「んっ……んう……あ、あっ……
擦れるの……いいっ……あ……
あっ、んんっ……んう、あ、あっ……」

「はあ、あっ……んう、あ、あっ、あっ……
はあ、動くたびに……
あなたのおちんちん
、気持ちよさそうに
大きくなってる……▼
セックス、好きになれそう……？」

「確かに……
この気持ちよさは、
他じゃ味わえそうにないわよね
あ……あっ、ん、んう……ふう……
んんっ、んく、あ……あっ……」

／＼マイク上方

「はぁ……見て？ 見える……？」

あなたのおちんちんが……

ゆーっくり……はぁ……

先端から、んっ、んんっ……

根元まで、飲み込まれて、

いくところ……」

「はぁ……あっ……もう一回……

ゆーっくり……あぁっ……

引き抜いて……

あっ、ん、んくっ……はぁ……

ゆーっくり……腰を下ろして……

あっ、あっ、ん、んくっ、んんっ……」

「はぁぁ……▼

感じちやう……んっ、ぁ……

一気に快感が突き抜ける感じ……

病みつきになっちゃいそう……

あなたも、同じかしら……▼

ん、んう……

は、はぁぁ……あっ、んんっ……」

「もっと動いてほしいの……？」

だめよ、お願いするなんて。

私が先輩なんだから……

私が気持ちいいように動くから、

あなたはそれを感じて？」

／＼マイク上方

「あ……ああっ、ん、んう、はあ……
あっ……▼

んふ……はあ、あっ、んんっ、んう……
んく、んっ……▼

「あ、はあっ、私の身体って……

こんなふうに悦ぶのね……▼

ああ、っ、ん……

んう、ん、んくっ……あ……

はあ、ん、んんっ▼

「はあ、私のえつちな声……

あ、あっ、あっ……

温室の薔薇たちに、

聞かれちゃってるわ……▼

ん、んくっ、あ、あっ……

んっ、んふ……んっ、あ、あっ……

はあ、あっ、ああっ▼

「はあ、あっ、んんっ……

腰の動かし方も、わかってきたわ……

あ、あっ、んっ……こうかしら……▼

ん、んくっ……んんっ……▼

「あ、あっ……ん、はあっ、あっ……▼

ん、んんっ……▼

一番奥で……あ、あっ……

おちんちん、ぐりぐりっして……

ん、んっ、あ、あっ、はあ……

気持ち、いいっ……▼

はあ、奥、好きだわ……▼

あなたも、気持ちいい……？」

／＼マイク上方

「はぁ……確かに……気持ちいいと、
私のおまんこ、

ぎゅって締まってるわね……

あなたのおちんちん、

ぎゅって抱きしめてる感じがする……

これが、気持ちいいの？

ふうん……いいこと聞いちゃったわ。

私が気持ちいいと……

あなたは気持ちよくなっちゃうのね」

「じゃあ……もつと、

気持ちいいところ探しながら、

動いちゃう……▼」

「あ、あっ……んっ……

はぁ、あっ……腰を……

前後に動かしたり……▼

あ、あっ……ひう……

あっ、はぁ、あっ、んんっ……

はぁ、動き方、変えると……

ん、んんっ、あなたのおちんちん、はぁ、

いろいろなところ、当たって……▼

あ。あっ、んふ、はぁ……

あっ、んんっ▼

ひう、うつつ、あ、ああっ、

はあっ、あっ▼ん、んんっ▼」

／＼マイク上方

「はあ、あなたのおちんちん、んっ、
気持ち、いいっ……▼

はあ、動くたびに、あ、あつ、
どんどん……んんっ……、

あなたのおちんちんが、可愛くて、
どんどん好きになっちゃうっ……▼

はああ、ん、んくっ、あ、あっ……▼

はああっ、ん、んくっ、ん、はあ、あっ、
んんっ▼

あ、ああっ、ん、んふ……

あなたのおちんちん……

好き、好きっ、あ、あっ、あっ……▼」

「はあ、あなたも……

私とこんなふうに肌を重ねてると……
気持ちいが、変わってくる……？」

「私のこと……どんどん好きになっちゃう？

ふふ、じゃあ……

いっぱい好きって言ってあげるから、
あなたも私のこと、

好きっていっぱい言ってね」

「はあ、あっ、ああっ、好き、んっ、

好きっ……あ、あっ、好き、好きッ、

んんっ、は、ああっ、身体、どんどん、

んんっ、はあ、熱く、なっちゃうっ▼

好き、好きっ、あ、あっ、好き、んんっ、

あ、好き！ はあ、あっ、ああっ▼

んんっ、はあ、あああっ、好き、んくっ、

んっ、あっ、はあっ▼

んっ▼ んくっ、う、ううううっ、ん、

あ、はああっ▼」

／＼マイク上方

「好き、好きっ、ん、んう、あ、はあっ、
好き、んくっ、んんっ▼
はああっ▼ おまんこ、あ、あつ、
いっぱい、あなたのおちんちん、
抱きしめちゃうっ……▼」

「はあ、あつ、んう、あつ、ああっ▼
はあ、嬉しい、もつと、言って？
あなたの好きって言葉、もつと、
聞かせてっ……！
あつ、ああつ、はあ、好き、私も、
好きっ、あ、あつ▼
んっ、好き、好きい！
はあ、あつ、ん、んんっ、う、あつ、
はあ、あつ、ん、んくっ、んんっ……▼
好きッ、あ、ああっ▼」

「はあ、あつ、イキたい、のっ？
ん、んんっ……」

★腰止め

「はあ、あつ……まだ……だーめ……▼
もつと我慢して、もう無理っとなるまで、
出しちゃだめ……▼」

「あなたの我慢している可愛い顔、
もつと見せて？」

／＼マイク上方

「あ、あっ……ん、んう、はあ、あっ……
そう、そうよ……っ、可愛い……

好き……あ、あっ……

あなたのその、

我慢している可愛い顔……

堪らなく、好きっ▼

あなたの顔見ながら、

もっと興奮しちゃうっ▼

あ、あっ▼ はあ、あっ、ああっ……▼」

「はあ、あなたの顔、もっと間近で見せて？」

★対面座位に変更、起き上がり

／＼マイクを元の高さに戻します

／＼右耳近くで囁きます

「はあ、あっ……んっ……▼

ぎゅっ……▼ んふ……

はあ、あなたの身体……

結構がつしりしてるのね……▼

ん、んう、あ、あっ……▼」

／＼正面間近

「……はあ、あっ、んんっ、んくっ……

あ、あっ、ああっ……はあ、あっ……▼

はあ、さっきと当たるところ、

変わって……、あ、あっ……

んんっ……▼」

／＼正面間近

「あ、あっ……んんっ！

んう、あ、あっ……▼

はあ、好き、好きっ……ん、はあ……

あなたの顔が、間近にあって……

どきどきしちゃう……

あ、あっ、はああっ、ん……

んくっ、ん、んんっ▼

ん、んんっ、あ、私も……

おかしく、なっちゃいそ、う……

あ、はあっ……

でも、我慢……するわ……

っ、う、ああっ、

まだ、あなたと、もつとっ……

あ、あっ、んんっ▼

はあ、あっ、ああっ▼」

●喘ぎ・中

「はあ、あっ、我慢、するの……

気持ちいいわ……▼

あ、あっ……んんっ、んくっ、あ、

あっ……▼

あなたも……余裕ない顔、可愛い。はあ、

好き……好きよ……▼

はあ、私も……あ、あっ、

誰にも見せたことのない顔、

きつと、してるわね……

あ、あっ……はあ、あっ、あっ……▼

ん、んんっ、んくっ……あ、あっ……

やあ、あっ、感じ、ちやうっ、ん、

んんっ、あ、あっ▼」

●喘ぎ・中

／＼右耳元で

「はあ、もう、我慢、できないの……っ？
じゃあ……一緒に、最後まで……」

気持ちよくなりましょう……？

女性がすっごく気持ちよくなっちゃうの、
イクって言うんでしょう？

それ……あなたに教えて欲しい……▼」

／＼正面間近

「あっ、ああっ、ん、んくっ、あ、

あっ、ああっ▼

はあ、あっ、あっ、んんっ、んく、んっ、

あ、あっ、あっ、はああっ▼」

「はあっ、だめ、あ、あっ、気持ち、いいっ、

ん、んくっ、あ、あっ、ああっ▼

はああっ、もう、あ、あっ、んんっ、

んく……あ、あっ、んんっ▼

はああ、あっ、あっ、気持ち、いいっ、

気持ち、いいっ、ああっ、あっ▼」

「はあ、あっ、あなたも、

出ちやう、のっ……？

あ、あっ、ああっ……▼

ん、んんっ、精液、私のおまんこに、

びゅっびゅっつて、出しちやう、のっ？」

／＼正面間近

「あ、あつ……」

はぁあつ▼ 子宮が……疼いちやうつ、

あ、あつ▼

はぁ、あつ、私の、子宮が、

あつ、あぁあつ、あなたの精液、

欲しがってるっ！ あ、あぁあつ、

あぁあつ▼」

●喘ぎ・激しく

「ちようだいっ、あ、あつ、あなたのっ、

精液っ、あぁあつ、はぁあつ、あつ、

私の子宮に、あぁあつ、注いでえ！

ひうっ、あ、あつ、はぁあつ、ん、あ、

あつ、ふぁあぁあつ！」

●喘ぎ・激しく

「はぁ、あつ、もう、あ、限界っ……」

あ、あぁあつ、

おかしくなるっ、イっちや……うっ、あ、

あつ、あぁあつ▼イっちや、うっ、

イっちやう、イっちやうっ！！！」

「はぁ、あぁあぁあつ、あつ、

んんんっ……！！

あつ、あぁあつ、あぁあつ！」

／＼演技…絶頂・余韻長めに

「あぁあぁあぁあぁあぁあぁあつっっ！！！！！」

／＼正面から左耳元へ移動しながら囁きま
す

「……はぁ……ん……んう……

ぁ、はぁぁ……ぁ……ぁっ……

出てる……ん……ぁ……ドクドク……

注がれちゃってる……▼

んふ……はぁ……ぁ……」

「……ふふ……気持ちよかった……▼

あなたのおちんちんも、

すごく頑張ってくれたわね……▼

……大好き……▼」

■トラック7 付き合ってもいいけど

／＼正面遠くで話します

／＼演技…電話風

「ええ……ありがとう。待ってるわね」

／＼正面遠くから正面へ移動しながら話します

「今、学園の玄関についたみたい。

今から温室に制服の替え、

届けてくれるって」

「ほら、あなたも……

タオルでもかぶっておきなさい？

そんな恰好で出迎えたら、

誤解されるでしょう？」

「……………」

ねえ……あなた、さつき、

私のこと好きって、言ったわよね？

もちろん、私も言っただけ……」

「それで……それだけ？」

……これだけのことしたのに、

責任取らないつもりなの？

言わなきゃいけないこと、あるわよね？」

／＼間

「……………よくできました。」

……そうね。あなたがどうしてもって

言うなら……付き合ってもいいけど」

／＼正面で話します

「……冗談よ。」

好きだって、言っただでしょ？

それとも、まだ足りないかしら？

あなたがまだ足りないって言うなら……
いくらでも、好きって言ってあげるわ」

／＼正面から右耳元へ移動しながら囁きま
す

「大好きよ。」

あなたが可愛くて、

絶対に手放したくない。

これから、もつともつと

私にふさわしい男になれるように……

先輩として、恋人として、

いっぱい指導してあげるわ」

／＼右耳元から正面間近へ移動しながら話
します

「……ふふ、可愛い。」

あなたの顔見るとすごく癒されるわ。

これから、よろしくね」

■BGV

トラック2使用

・耳舐め左・右

ん……んちゅつ、ちゅう……ちゅつ、
ちゆる……ちゅば、ちゅつ、じゆる、
ちゅつ、ちゅう……ちゅ、ちゅば、
ちゅつ、ちゆるつ、ちゅ、ん……
ちゅつ……

トラック3使用

・指舐め

ちゅつ、ちゅう……ちゅつ……んちゅつ、
ちゅう……ちゆるつ、ちゅつ、んく……
ちゅう……ちゅ、はあ……ん、じゆる、
ちゅつ……

トラック6使用

・喘ぎ・中

あ、んんつ、んう……はあ、あつ、あつ、
ん、んんつ▼ はあ、あつ、あんつ、
んくつ……はあ、あつ、あつ、ああつ、
ん、んう、はあ、あつ、あつ▼

・喘ぎ・激しく

ああ、あつ、んあ、あつ、ああつ▼
あつ、ああつ、ん、んくつ、あ、あつ、
ああつ、あつ、ああつ▼
はあ、あつ、う、んんつ、あ、ああつ、
はあ、あつ、ああつ▼